

「日々の理科」(第1382号) 2018 (H30), -4, 19
「目指せコンプリート! 春の野草探し(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

3年生が「春の野草探し」に訪れた場所は、日当たりの良い草地で、自動車も通らない安全な場所だ。時折学生さんが歩いているだけで、外部の方も通らないので、その点も安心である。



子どもたちは班(研究所)ごとに、まとめシートにある15種類の野草を探し始めた。この日は暑くも寒くもなく、風も穏やかだったので、絶好の自然観察日よりだった。



この「イタドリ広場」には、大きなモミジの木がある。杭と鎖で囲まれているので、木の下は雑草が生い茂っている。ほとんどはカラスノエンドウ(ヤハズエンドウ)で、今の時期はつぼみ、花、若い果実(マメの鞘)が揃っている。カラスノエンドウも目的の野草の一つなので、さっそく採集していた。



多くの子どもは、カラスノエンドウの果実(鞘)に興味を持つ。若い果実とはいえ、中にはすでに豆(種子)ができていることに、驚く姿が見られた。



「オオイヌノフグリ」も対象植物だ。「タチイヌノフグリ」との見分けが、子どもには少し難しいが、特徴のちがいをよく見て、採集していた。



採集した植物は、その場でまとめシートに貼り付ける。そのために、小さなセロテープを持参している。なるべく枠からはみ出さないように貼るのが大変だ。